

(参考様式2) 社会資本総合整備計画(地域活力基盤創造計画) 事後評価書

平成26年3月31日

計画の名称	17 災害に強い交通ネットワークを構築し、安心・安全な暮らしを支援する道路整備									
計画の期間	平成21年度～平成25年度(5年間)	交付対象	静岡県、藤枝市							
計画の目標	市民の安心・安全な暮らしを支援するため、緊急に対策を必要とする箇所の解消(バイパス・現道拡幅・歩道整備・舗装改良等)を図り、災害に強い交通ネットワークを構築し、地域の医療拠点である市立総合病院へのアクセスを強化し、重症患者の円滑な病院搬送等を実現する。									
計画の成果目標(アウトカム指標)	①周辺地域の日常生活の標準地から総合病院までの整備後の所要時間を15.0%(H25)短縮する。									
アウトカム指標の定義及び算定式	①周辺地域の日常生活の標準地から市立総合病院までの現在と整備後の所要時間の比較より算出する。 市立病院までのアクセス時間短縮率(%) = (Σ事業前所要時間 - Σ事業後所要時間) / Σ事業前所要時間 × 100			定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値 (H21当初) 0.0% 中間目標値 (H23末) 最終目標値 (H25末) 15.0%						
全体事業費	合計 (A+B+C)	4,119 百万円	A	3,984 百万円	B	0 百万円	C	135 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	3.3%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、国からの指導に基づき、学識経験者を入れた評価委員会を1回開催し、これによりとりまとめた原案をもとに、市民への公表を行う。	H25年度
公表の方法	評価完了後、市の広報及びホームページに掲載予定

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業														事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
A 地方道路整備事業														H21	H22	H23	H24	H25		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名(事業箇所)		事業内容(延長・面積等)		市町村名								
17-A1	街路	一般	静岡県	間接	水守区画整理組合	区画	改築	0.55	水守地区((都)大覚寺藤岡線 他)		区画整理 A=46.0ha	藤枝市						1719.202		
17-A2	街路	一般	静岡県	間接	青木区画整理組合	区画	改築	0.55	青木地区((都)青島焼津線 他)		区画整理 A=35.7ha	藤枝市						213.000		
17-A4	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(他)志太中央幹線		バイパス L=0.88km	藤枝市						1000.000		
17-A5	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(他)2地区107号線		現道拡幅 L=0.26km	藤枝市						23.000		
17-A6	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(1)本町大東町線		現道拡幅 L=0.21km	藤枝市						45.000		
17-A7	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(1)藤枝駅吉永線		舗装改良 L=1.20km	藤枝市						119.000		
17-A8	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(1)大洲中央線		現道拡幅 L=0.63km	藤枝市						54.000		
17-A9	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(1)大西町善左衛門線		現道拡幅 L=0.22km	藤枝市						82.000		
17-A10	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(1)小川青島線		舗装改良 L=0.55km	藤枝市						44.000		
17-A11	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(他)天王町仮宿線		現道拡幅 L=0.12km	藤枝市						208.731		
17-A12	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(2)高田仮宿線		現道拡幅 L=0.14km	藤枝市						26.540		
17-A13	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(1)下当間越後島線		現道拡幅 L=0.23km	藤枝市						24.043		
17-A14	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(2)上当間下当間線		現道拡幅 L=0.12km	藤枝市						18.517		
17-A15	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(他)1地区256号線		現道拡幅 L=0.44km	藤枝市						41.625		
17-A18	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(他)5地区159号線		現道拡幅 L=0.25km	藤枝市						34.775		
17-A19	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	交安	0.55	(1)本町大東町線		交差点改良 L=0.47km	藤枝市						162.600		
17-A20	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	交安	0.55	(他)2地区140号線		自歩道整備 L=0.63km	藤枝市						136.000	計画移行(025~)	
17-A21	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(他)5地区24号線		現道拡幅 L=0.07km	藤枝市						2.982		
17-A22	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(他)1地区86号線		現道拡幅 L=0.16km	藤枝市						13.018		
17-A25	道路	一般	藤枝市	直接		市町村道	改築	0.55	(他)1地区239号線		現道拡幅 L=0.04km	藤枝市						16.280		
											合計					3,984.313				

B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H21	H22	H23	H24	H25		
											合計	0				

番号 一体的に実施することにより期待される効果

C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H21	H22	H23	H24	H25			
17-C1	公共交通	一般	藤枝市	直接		バス購入	0.55	地域交通支援のためのバス購入	中型ノンステップバス1台購入	藤枝市						17.839	
17-C3	施設整備	一般	藤枝市	間接	NTT・中電	引込設備	0.55	岡部中央幹線電線共同溝整備事業	引込設備 (対象N=26戸)	藤枝市						8.040	
17-C4	計画・調査	一般	藤枝市	直接		点検・計画	0.55	長寿命化修繕計画	橋梁の点検・計画策定	藤枝市						31.491	
17-C5	道路	一般	藤枝市	直接		改築	0.55	(都)岡部藤枝線	現道拡幅 L=0.15km	藤枝市						75.000	
17-C6	計画・調査	一般	藤枝市	直接		調査	0.55	事業活用調査	事業効果分析調査	藤枝市						2.520	
											合計	134.890					

番号 一体的に実施することにより期待される効果

17-C1	17-A7藤枝駅吉永線の整備後、バス車両（低床）を購入することにより、藤枝市南部に居住する交通弱者の市立総合病院への安全で快適な移動が可能となる。													
17-C3	災害時の緊急輸送路である岡部中央幹線において電線共同溝を整備することにより、通行遮断の要因となる電柱の無電柱化を図り、災害に強い交通ネットワークを構築する。													
17-C4	緊急に対策を必要とする橋梁の解消を図り、災害に強い交通ネットワークを構築するため、橋梁の点検と修繕計画を策定する。													
17-C5	水守地区区画整理(17-A1)地内(都)藤岡平島線と接続するため、右折レーンを設置する道路改良を行い、交通渋滞の緩和を図る。													
17-C6	基幹事業を実施することによる成果等を客観的に検討して、今後のまちづくりのあり方と事業の成果を市民にわかりやすく説明し、次期計画の効率的、効果的な展開を図る。													

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

その他関連する事業															
計画等の名称 32 暮らしの安全・安心を創出する“ふじのくに”のみちづくり															
事業種別		交付対象			要素となる事業名 (事業箇所)			市町村名					全体事業費 (百万円)	備考	
17-A'20	道路		静岡県		(他)2地区140号線			藤枝市					160.000	計画32～移行	
事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)		市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		

A'	160百万円	B'	百万円	C'	百万円	(C+C')/(A+A')+(B+B')+(C+C')	3.2%
----	--------	----	-----	----	-----	-----------------------------	------

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

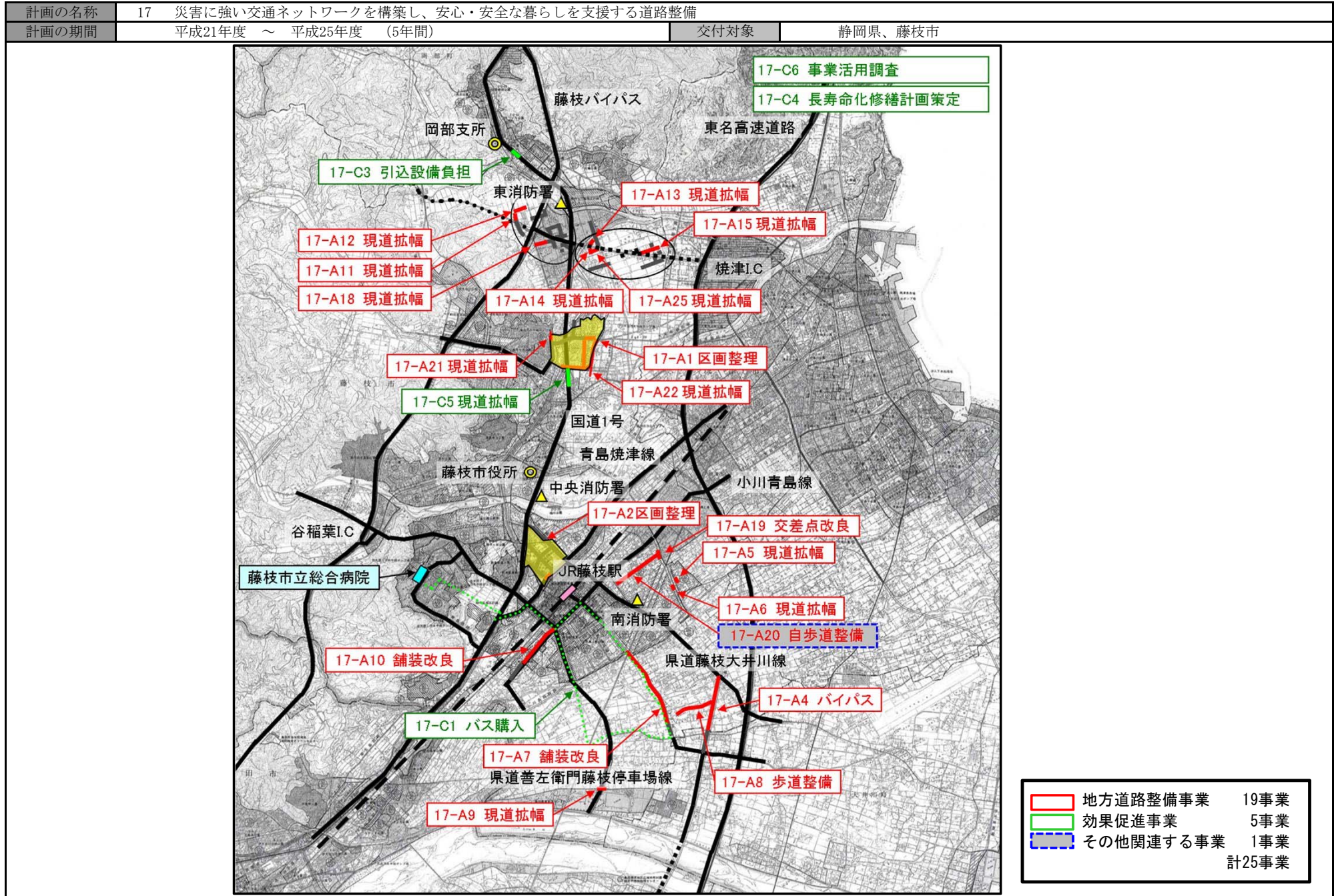
<p>I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況</p>	<p>緊急車両の救急搬送時間においては、従前値の短縮という目標は達成できなかった。しかし、事業の進捗により道路環境が改善され、アクセス性が向上したことについては評価できる。計測結果からの判断として目標値に達成するだけの、道路環境の改善・新設等は予定されておらず、1年以内の目標達成の見込みはなしとした。</p> <p>【その他特記事項】 指標を計測する値として、緊急車両の救急搬送時間を用いたが、従前後において、時間計測時間帯やデータ数が一致しないことが目標達成度に影響した。またアクセス距離短縮率の割に、アクセス時間短縮率の目標値を意欲的な数値に設定したことが、目標達成度に影響した。</p>		
--	---	--	--

<p>II 定量的指標の達成状況</p>	<p>指標①（市立病院までのアクセス時間短縮率）</p>	最終目標値	15.00%	<p>総合所見</p>	<p>区画整理事業の推進、現道の拡幅、舗装改良などにより、緊急時の緊急車両の搬送経路として、安全で快適な搬送経路が選択できるようになり、標準地3地点においてアクセス時間は短縮された。 しかし、目標値の達成には至らず、原因の一つとして、実測値として実際に出勤した緊急車両の搬送時間を使用したため、事業前と事業後で場所や時間帯等の条件を合わせる事ができず、同一の交通状況下での比較ができなかったことが影響していると想定されるが、市立病院までのアクセス距離は12.7%短縮されており、今後、サンプル数が増えれば、搬送時間の短縮に繋がってくると考えられる。 その他の原因としては、予算及び他事業との調整により施工時期延伸となった事業を次期計画へ移行し、当初計画していた整備ができなかったことが大きく影響していると想定される。また、平成22年から平成25年にかけて国道1号の交通量増加による走行速度の低下が他調査により明らかになっており、その点も原因の一つとして想定される。 今後、次期計画へ移行した事業の整備を進めることで、アクセス距離が更に短縮され、特に国道1号のバイパス路線として計画していた三輪立花線の整備完了後には、国道1号仮宿交差点の渋滞緩和も図られることから、搬送時間の短縮に繋がると考えられる。</p>
		最終実績値	3.50%		
	<p>その他の数値指標①（市立病院までのアクセス距離短縮率）</p>	従前値	0.00%	<p>総合所見</p>	<p>区画整理事業の推進、現道の拡幅、舗装改良などにより、緊急時の緊急車両の搬送経路として、安全で快適な搬送経路が短距離で選択できるようになり、アクセス距離が短縮された。</p> <p>【今後の活用】 計画的な道路整備等をより一層行っていくことで、災害に強い交通ネットワーク構築に取り組み市民の安心・安全な暮らしの支援を進めていく。</p>
		最終実績値	12.70%		
	<p>その他の数値指標②（車道拡幅率）</p>	従前値	0.00%	<p>総合所見</p>	<p>事業の推進により、交通量が増加している箇所や、交通渋滞が発生している箇所への重点的な車道拡幅整備が進んだ。このことにより自動車のアクセス性（移動円滑性）、歩行者の安全性などが向上し、市全域における交通ネットワークが強化された。</p> <p>【今後の活用】 引き続き、車両の通行しやすい道路環境を整備することで、災害に強い交通ネットワークを構築していく。</p>
		最終実績値	52.50%		
	<p>その他の数値指標①（歩道整備率）</p>	従前値	0.00%	<p>総合所見</p>	<p>事業の推進により、歩道の整備が進み、歩行空間の快適性の向上や、歩行者の安全性が確保され、バリアフリー歩行空間ネットワークが強化された。</p> <p>【今後の活用】 引き続き、歩行者空間を整備することで、歩車分離を促し、歩行者、車両相互にとって快適かつ安心・安全な道路環境を創出していく。</p>
		最終実績値	61.20%		

<p>III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)</p>	<p>事業に取り組んだことにより、道路幅員の拡幅、舗装の整備、歩道の整備等が進み、道路環境が向上したことにより、市民生活における安心・安全性および快適性が向上した。</p>
--	--

<p>3. 特記事項（今後の方針等）</p>	<p>遅れの生じている事業の進捗に、鋭意に取り組むと同時に、計画的な道路整備等をより一層行っていくことで、市立総合病院までのアクセス性を向上させ、災害に強い交通ネットワーク構築に取り組み市民の安心・安全な暮らしの支援を進めていく。</p>
------------------------	---

(参考様式3) 社会資本総合整備計画 (地域活力基盤創造計画)



社会資本総合整備計画 事後評価シート
藤枝市

平成26年3月

静岡県藤枝市

評価結果のまとめ

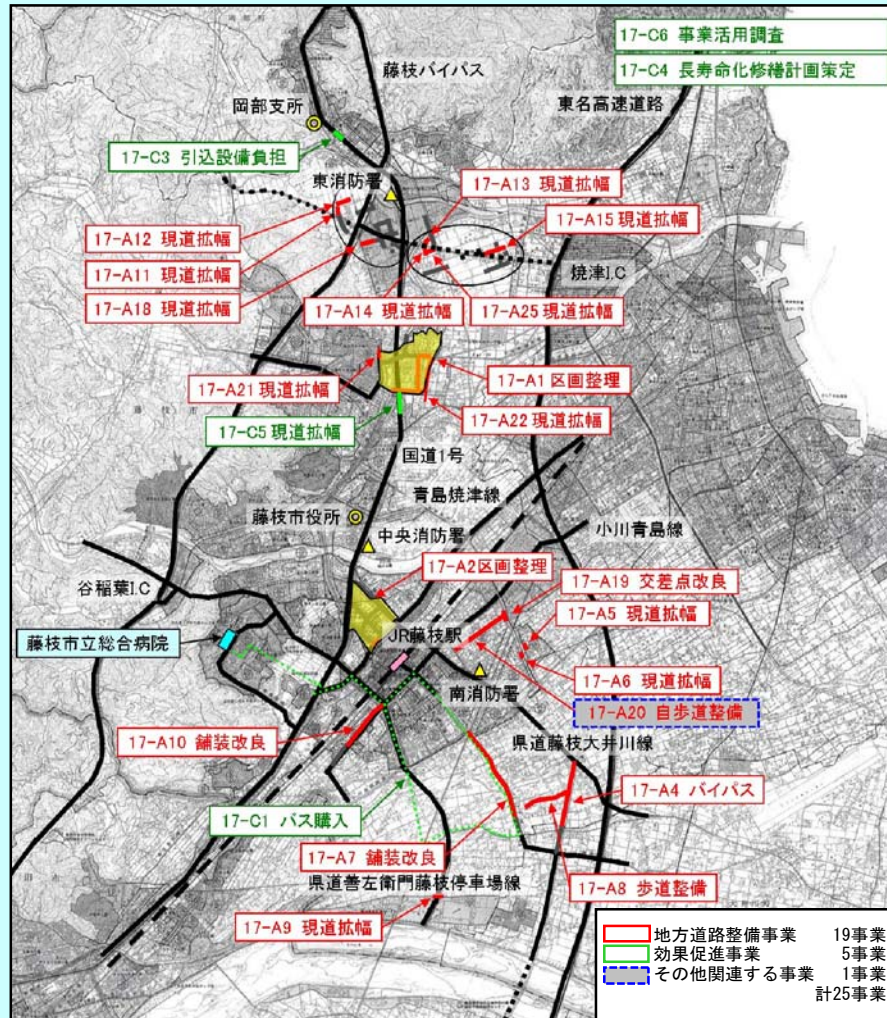
都道府県名	静岡県		市町村名	藤枝市		計画の名称	災害に強い交通ネットワークを構築し、安全・安心な暮らしを支援する道路整備		面積	-	
交付期間	平成21年度～平成25年度		事後評価実施時期	平成26年3月		交付対象事業費	4,119百万円	国費率	効果促進事業費の割合	3.3%	
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名									
		A地方道路整備事業	水守地区((都)大覚寺藤岡線 他)、青木地区((都)青島焼津線 他)、(他)志太中央幹線、(他)2地区107号線、(1)本町大東町線、(1)藤枝駅吉永線、(1)大洲中央線、(1)大西町善左衛門線、(1)小川青島線、(他)天王町仮宿線、(2)高田仮宿線、(1)下当間越後島線、(2)上当間下当間線、(他)1地区256号線、(他)5地区159号線								
		B関連社会基本整備事業									
	C効果促進事業	地域交通支援のためのバス購入、長寿命化修繕計画(15m未満橋梁の点検・計画施策)、岡部中央幹線電線共同溝整備事業									
	当初計画から削除した事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		A地方道路整備事業	(都)三輪立花線		施工時期延伸に伴う整備計画の変更			影響あり			
			(他)1地区300号線		施工時期延伸に伴う整備計画の変更			影響なし			
			(他)5地区163号線		施工時期延伸に伴う整備計画の変更			影響なし			
		B関連社会基本整備事業	水守区画整理区域内下水道築造		藤枝市の別の整備計画へ移行			影響なし			
		C効果促進事業	長寿命化修繕計画(15m未満橋梁の修繕化計画)		橋梁長寿命化計画の見直し →長寿命化修繕計画(橋梁の点検・計画策定)に統合			影響なし			
		新たに追加した事業	A地方道路整備事業	(1)本町大東町線(交差点改良)		渋滞緩和の地元要望に伴う整備計画の変更			影響なし		
				(他)2地区140号線		歩道整備の地元要望に伴う整備計画の変更→静岡県の整備計画へ移行			影響なし		
				(他)5地区24号線		水守土地区画整理事業の施工時期変更に伴う整備計画の変更			影響なし		
				(他)1地区86号線		水守土地区画整理事業の施工時期変更に伴う整備計画の変更			影響なし		
				(他)1地区239号線		静岡県の実施する焼津森線整備事業の施工時期変更に伴う整備計画の変更			影響なし		
B関連社会基本整備事業											
C効果促進事業	長寿命化修繕計画(橋梁の点検・計画策定)、(都)岡部藤枝線、事業活用調査		橋梁長寿命化計画の見直し 水守土地区画整理事業の施工時期変更に伴う整備計画の変更			影響なし					
その他関連する事業	(他)2地区140号線		静岡県の整備計画へ移行			影響なし					
交付期間の変更	当初	平成21年度～平成25年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし					
	変更	なし									

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	2) 社会資本整備計画に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指標1	市立病院までの アクセス時間短縮率	%	0.0	H21	15.0	H25		3.5	×	あり	
	指標2										あり なし		
	指標3										あり なし		
	指標4										あり なし		
	指標5										あり なし		
	指標1	市立病院までの アクセス距離短縮率	%	0.0	H21				12.7			区画整理事業の推進、現道の拡幅、舗装改良などにより、緊急時の緊急車両の搬送経路として、安全で快適な搬送経路が短距離で選択できるようになり、アクセス距離が短縮された。	
	指標2	車道拡幅整備率	%	0.0	H21				52.5			事業の推進により、交通量が増加している箇所や、交通渋滞が発生している箇所への重点的な車道拡幅整備が進んだ。このことにより自動車のアクセス性(移動円滑性)、歩行者の安全性などが向上し、市全域における交通ネットワークが強化された。	
	指標3	歩道整備率	%	0.0	H21				61.2			事業の推進により、歩道の整備が進んだことにより、歩行空間の快適性の向上や、歩行者の安全性が確保され、バリアフリー歩行空間ネットワークが強化された。	
4) 定性的な効果 発現状況	事業に取り組んだことにより、道路幅員の拡幅、舗装の整備、歩道の整備等が進み、道路環境が向上したことにより、市民生活における安心・安全性および快適性が向上した。												

地区の概要

静岡県藤枝市地域活力基盤創造計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
17.災害に強い交通ネットワークを構築し、安全・安心な暮らしを支援する道路整備 市民の安心・安全な暮らしを支援するため、緊急に対策を必要とする箇所の解消(バイパス・現道拡幅・歩道整備・舗装改良等)を図り、災害に強い交通ネットワークを構築し、地域の医療拠点でもある市立総合病院へのアクセスを強化し、重症患者の円滑な病院搬送等を実現する。	市立病院までのアクセス時間短縮率 単位: %	0.0 H21	15.0 H25	3.5 H25
	市立病院までのアクセス距離短縮率 単位: %	0.0 H21	- H25	12.7 H25
	車道拡幅整備率 単位: %	0.0 H21	- H25	52.5 H25
	歩道整備率 単位: %	0.0 H21	- H25	61.2 H25
	単位:	H	H	H



添付様式1-① 社会資本総合整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

A 地方道路整備事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	社会資本総合整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
街路	水守地区((都)大覚寺藤岡線 他) 17-A1	1,353.000	区画整理 A=46.0ha	1,719.202	区画整理 A=46.0ha	事業費の増額 事業実施期間H21-23からH21-24に延伸	指標1「市立病院までのアクセス時間短縮率」に関係するが、指標および目標は据え置く	●	
街路	青木地区((都)青島焼津線 他) 17-A2	213.000	区画整理 A=35.7ha	213.000	区画整理 A=35.7ha	なし	-	●	
街路	(都)三輪立花線 17-A3	1,200.000	ハイパス L=0.26km	-	なし	削除	-	-	
道路	(他)志太中央幹線 17-A4	1,090.000	ハイパス L=0.88km	1,000.000	ハイパス L=0.88km	事業費の減額	指標1「市立病院までのアクセス時間短縮率」に関係するが、指標および目標は据え置く	●	
道路	(他)2地区107号線 17-A5	36.000	現道拡幅 L=0.26km	23.000	現道拡幅 L=0.26km	事業費の減額	影響なし	●	
道路	(1)本町大東町線 17-A6	35.000	現道拡幅 L=0.17km	45.000	現道拡幅 L=0.21km	事業費の増額 L=0.17km → L=0.21kmに拡大 事業実施期間H21-22からH21-23に延伸	影響なし	●	
道路	(1)藤枝駅吉永線 17-A7	118.000	舗装改良 L=1.20km	119.000	舗装改良 L=1.20km	事業費の増額	-	●	
道路	(1)大洲中央線 17-A8	41.000	現道拡幅 L=0.17km	54.000	現道拡幅 L=0.63km	事業費の増額 L=0.17km → L=0.63kmに拡大	指標1「市立病院までのアクセス時間短縮率」に関係するが、指標および目標は据え置く	●	
道路	(1)大西町善左衛門線 17-A9	71.000	現道拡幅 L=0.22km	82.000	現道拡幅 L=0.22km	事業費の増額	影響なし	●	
道路	(1)小川青島線 17-A10	68.000	舗装改良 L=0.74km	44.000	舗装改良 L=0.55km	事業費の減額 L=0.74km → L=0.55kmに縮小 事業実施期間H21-23からH21単年に短縮	影響なし	●	
道路	(他)天王町仮宿線 17-A11	554.000	現道拡幅 L=0.12km	208.731	現道拡幅 L=0.12km	事業費の減額 事業実施期間H23-25からH23-26に延伸	影響なし	-	-
道路	(2)高田仮宿線 17-A12	31.000	現道拡幅 L=0.13km	26.540	現道拡幅 L=0.14km	事業費の減額 L=0.13km → L=0.14kmに拡大 事業実施期間H22-23終了後、H25に追加	影響なし		●
道路	(1)下当間越後島線 17-A13	33.000	現道拡幅 L=0.23km	24.043	現道拡幅 L=0.23km	事業費の減額 事業実施期間H22-24からH25-26に変更	影響なし	-	-
道路	(2)上当間下当間線 17-A14	16.000	現道拡幅 L=0.10km	18.517	現道拡幅 L=0.12km	事業費の増額 L=0.10km → L=0.12kmに拡大 事業実施期間H22-23からH25-26に変更	影響なし	-	-
道路	(他)1地区256号線 17-A15	40.000	現道拡幅 L=0.27km	41.625	現道拡幅 L=0.44km	事業費の増額 L=0.27km → L=0.44kmに拡大 事業実施期間H22-25からH23-24、H26以降に変更	影響なし	-	-
道路	(他)1地区300号線 17-A16	30.000	現道拡幅 L=0.43km	-	なし	削除	-	-	-
道路	(他)5地区163号線 17-A17	7.000	現道拡幅 L=0.03km	-	なし	削除	-	-	-
道路	(他)5地区159号線 17-A18	16.000	現道拡幅 L=0.22km	34.775	現道拡幅 L=0.25km	事業費の増額 L=0.22km → L=0.25kmに拡大 事業実施期間H22-24からH24単年に短縮	指標1「市立病院までのアクセス時間短縮率」に関係するが、指標および目標は据え置く	●	

道路	(1)本町大東町線	17-A19	-	なし	162.600	交差点改良 L=0.47km	追加(H22.4)事業実施期間H22-23	影響なし	●	-
道路	(他)2地区140号線	17-A20	-	なし	136.000	自歩道整備 L=0.63km	追加(H22.4)後、防災・安全交付金事業として「その他関連する事業」に変更(H25.3)事業実施期間H23-26	指標1「市立病院までのアクセス時間短縮率」に係るが、指標および目標は据え置く	-	-
道路	(他)5地区24号線	17-A21	-	なし	2.982	現道拡幅 L=0.07km	追加(H24.2)事業実施期間H24半年	影響なし	●	-
道路	(他)1地区86号線	17-A22	-	なし	13.018	現道拡幅 L=0.16km	追加(H24.2)事業実施期間H24半年	指標1「市立病院までのアクセス時間短縮率」に係るが、指標および目標は据え置く。	●	-
道路	(他)1地区224号線	17-A23	-	なし	-	なし	追加(H24.2)削除	-	-	-
道路	(他)1地区252号線	17-A24	-	なし	-	なし	追加(H25.3)削除	-	-	-
道路	(他)1地区239号線	17-A25	-	なし	16.280	現道拡幅 L=0.04km	追加(H25.3)事業実施期間H25半年	影響なし	-	●

B 関連社会資本整備事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	社会資本総合整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
公共下水道	水守区画整理区域内下水道築造	17-B1	133.000	区画整理 A=46.0ha	-	なし	削除	-	-

C 効果促進事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	社会資本総合整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況		
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み	
公共交通	地域交通支援のためのバス購入	17-C1	20.000	中型ノンステップバス1台購入	17.839	中型ノンステップバス1台購入	影響なし	●	-	
計画・調査	長寿命化修繕計画	17-C2	15.000	15m未満橋梁の修繕化計画	-	なし	17-C4へ統合	-	-	
施設整備	岡部中央幹線電線共同溝整備事業	17-C3	15.000	引込設備(対象N=26戸)	8.040	引込設備(対象N=26戸)	影響なし	●	-	
計画・調査	長寿命化修繕計画	17-C4	-	なし	31.491	橋梁の点検・計画策定	追加(H22.4)後、17-C2と統合(H22.11)事業内容について、17-C2と統合により「橋梁の点検・計画策定」へ変更事業実施期間(17-C2を含む)がH22-25からH22-24に短縮	影響なし	●	-
道路	(都)岡部藤枝線	17-C5	-	なし	75.000	現道拡幅 L=0.15km	追加(H24.2)事業実施期間H25のみ	指標1「市立病院までのアクセス時間短縮率」に係るが、指標および目標は据え置く。	-	●
計画・調査	事業活用調査	17-C6	-	なし	2.520	事業効果分析調査	追加(H25.3)事業実施期間H25のみ	影響なし	-	●

(参考) その他関連する事業

計画等の名称	事業	細項目	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
32 暮らしの安全・安心を創出する”ふじのくに”のみちづくり	道路	(他)2地区140号線	1-A'20	696.000	296.000	H23~25	H23~26	H25.3に防災・安全交付金事業(計画32)へ移行

添付様式2-① 社会資本整備総合計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2	1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度				あり	なし
指標1	%	消防から提供された救急搬送時間データを用いて、周辺地域の日常生活の標準地から市立総合病院までの、事業前後の所要時間を比較して算出。			0	平成21年	15.0	平成25年	モニタリング		モニタリング		●
									事後評価	確定見込み ●	3.5	事後評価	
指標2									モニタリング		モニタリング		
									事後評価	確定見込み		事後評価	
指標3									モニタリング		モニタリング		
									事後評価	確定見込み		事後評価	
指標4									モニタリング		モニタリング		
									事後評価	確定見込み		事後評価	
指標5									モニタリング		モニタリング		
									事後評価	確定見込み		事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	緊急車両の救急搬送時間においては、従前値の短縮という目標は達成できなかった。しかし、事業の進捗により道路環境が改善され、アクセス性が向上したことについては評価できる。計測結果からの判断として目標値に達成するだけの、道路環境の改善・新設等は予定されておらず、1年以内の目標達成の見込みはなしとした。	緊急車両の救急搬送時間を用いたが、従前後において、時間計測時間帯やデータ数が一致しないことが目標達成度に影響した。またアクセス距離短縮率の割に、アクセス時間短縮率の目標値を意欲的な数値に設定したことが、目標達成度に影響した。
指標2		
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
				基準 年度		基準 年度			
その他の 数値指標1	市立病院までのアクセス 距離短縮率	%	-	-	0.0	H21	モニタリング	事業に取り組んだことにより、 通行のしやすい環境を最短の 搬送ルートとして設定できるよ うになったことから、搬送ルート 距離の比較により、アクセス性 の向上を説明する。	
							事後評価		
その他の 数値指標2	車道拡幅整備率	%	-	-	0.0	H21	モニタリング	事業に取り組んだことにより、 自動車走行環境が向上してお り、車道拡幅整備延長の比較 により、安心・安全な道路環境 の向上を説明する。	
							事後評価		
その他の 数値指標3	歩道整備率	%	-	-	0.0	H21	モニタリング	事業に取り組んだことにより、 歩行者通行環境が向上してお り、歩道整備延長の比較によ り、快適かつ安心・安全な道路 環境の向上を説明する。	
							事後評価		

※1 計画以前の値とは、社会資本整備総合計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

事業に取り組んだことにより、道路幅員の拡幅、舗装の整備、歩道の整備等が進み、道路環境が向上したことにより、市民生活における安心・安全性および快適性が向上した。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式3-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	都市政策課 水守区画整理事務所 道路課	平成26年1月15日	道路課

添付様式3-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他数値指標1		その他数値指標2		その他数値指標3	
指標名		市立病院までのアクセス距離短縮率		車道拡幅整備率		歩道整備率	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
A 地方道路整備事業	水守地区(都)大覚寺藤岡線 他)	◎	区画整理事業の推進、現道の拡幅、舗装改良などにより、緊急時の緊急車両の搬送経路として、安全で快適な搬送経路が短距離で選択できるようになり、アクセス距離が短縮された。	◎	事業の推進により、交通量が増加している箇所や、交通渋滞が発生している箇所への重点的な車道拡幅整備が進んだ。このことにより自動車のアクセス性(移動円滑性)、歩行者の安全性などが向上し、市全域における交通ネットワークが強化された。	◎	事業の推進により、歩道の整備が進み、歩行空間の快適性の向上や、歩行者の安全性が確保され、バリアフリー歩行空間ネットワークが強化された。
	青木地区(都)青島焼津線 他)	◎					
	(他)志太中央幹線 17-A-4	◎					
	(他)2地区107号線 17-A-5	-					
	(1)本町大東町線 17-A-6	-					
	(1)藤枝駅吉永線 17-A-7	◎					
	(1)大洲中央線 17-A-8	◎					
	(1)大西町善左衛門線 17-A-9	-					
	(1)小川青島線 17-A-10	-					
	(他)天王町仮宿線 17-A-11	-					
	(2)高田仮宿線 17-A-12	-					
	(1)下当間越後島線 17-A-13	-					
	(2)上当間下当間線 17-A-14	-					
	(他)1地区256号線 17-A-15	-					
	(他)5地区159号線 17-A-18	◎					
(1)本町大東町線 17-A-19	-						
(他)5地区24号線 17-A-21	-						
(他)1地区86号線 17-A-22	◎						
(他)1地区239号線 17-A-25	-						
B 関連社会資本整備事業							
C 効果促進事業	地域交通支援のためのバス購入	-		-		-	
	岡部中央幹線電線共同溝整備事業	-		-		-	
	長寿命化修繕計画	-		-		-	
	(都)岡部藤枝線	-		◎		◎	
事業活用調査	-		-		-		
その他関連する事業	(他)2地区140号線 1-A-20	-		△		△	

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	計画的な道路整備等をより一層行っていくことで、災害に強い交通ネットワーク構築に取り組み市民の安心・安全な暮らしの支援を進めていく。	引き続き、車両の通行しやすい道路環境を整備することで、災害に強い交通ネットワークを構築していく。	引き続き、歩行者空間を整備することで、歩車分離を促し、歩行者、車両相互にとって快適かつ安心・安全な道路環境を創出していく。

添付様式3-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1											
指標名		市立病院までのアクセス時間短縮率											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
A 地方道路整備事業	水守地区(都)大覚寺藤岡線(他)	△	区画整理事業の推進、現道の拡幅、舗装改良などにより、緊急時の緊急車両の搬送経路として、安全で快適な搬送経路が選択できるようになり、標準地3地点においてアクセス時間は短縮された。しかし、目標値の達成には至らず、原因としては、施工時期延伸による事業の削除、実測値の測定時間の違いによる交通状況や、サンプル数の差異などが想定される。	Ⅲ									
	青木地区(都)青島焼津線(他)	△											
	(他)志太中央幹線 17-A-4	△											
	(他)2地区107号線 17-A-5	-											
	(1)本町大東町線 17-A-6	-											
	(1)藤枝駅吉永線 17-A-7	△											
	(1)天洲中央線 17-A-8	△											
	(1)大西町善左衛門線 17-A-9	-											
	(1)小川青島線 17-A-10	-											
	(他)天王町仮宿線 17-A-11	-											
	(2)高田仮宿線 17-A-12	-											
	(1)下当間越後島線 17-A-13	-											
	(2)上当間下当間線 17-A-14	-											
	(他)1地区256号線 17-A-15	-											
	(他)5地区159号線 17-A-18	△											
	(1)本町大東町線 17-A-19	-											
(他)5地区24号線 17-A-21	-												
(他)1地区86号線 17-A-22	△												
(他)1地区239号線 17-A-25	-												
B 関連社会資本整備事業													
C 効果促進事業	地域交通支援のためのバス購入	-											
	岡部中央幹線電線共同溝整備事業	-											
	長寿命化修繕計画	-											
	(都)岡部藤枝線事業活用調査	△											
その他関連する事業	(他)2地区140号線 1-A-20	-											

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	遅れの生じている事業の進捗に、鋭意に取り組むと同時に、計画的な道路整備等をより一層行っていくことで、市立総合病院までのアクセス性を向上させ、災害に強い交通ネットワーク構築に取り組む市民の安心・安全な暮らしの支援を進めていく。				
------------------	--	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式5 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	静岡産業大学 情報学部 田口敏行教授	H26年1月27日	道路課	藤枝市まちづくり交付金評価委員会設置要綱	藤枝市まちづくり交付金評価委員会
その他の委員	商工会議所 萩原正行専務理事 ㈱東海ガス 小林弘副社長 一級建築士 神保昌子氏				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	成果の評価	<p>【目標値の設定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標1：市立病院までのアクセス時間短縮率について、比較的外的要因の少ない緊急車両によるアクセス時間15%短縮を目標としているが、距離が15%短縮していない設定をした背景はどのようなものかという意見があった。 新東名の開通による国道1号の交通量の減少、市事業と国事業及び県事業の同時実施による相乗効果を見込んで設定したが、予定していた事業が未完成、想定外の外的要因による緊急車両の走行速度の圧迫等により、結果に至らなかったと回答し理解を得た。 計測地点について、距離が近い地点と遠い地点と差があり、総じて目標値を15%としてしまうのは適切ではなかったのではという意見があった。 <p>【計測方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標1の計測の方法について質疑があり、従前値はH21年度、整備後はH25年度とし、どちらも消防署にある緊急車両が出勤した箇所、数値時間のデータを用い、これらの平均値を比較していると回答し理解を得た。 指標1について、アクセス距離短縮が12.7%に加えて、国道1号などの渋滞による平均速度の低下を加味すると、効果としてアクセス時間短縮率15%に近い結果となると考える。平均速度の低下を考慮した想定はできないものかという意見があった。 ⇒参考資料として、あくまでも想定としての検証を行う。 <p>【指標の設定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標一つのみでは、事業を評価するための効果を十分に説明できないため、複数の数値目標を設定する方がよいという意見があった。
	効果発現要因の整理	特になし
	その他	<p>【計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> H21年度以前の実施内容について意見があり、H21年度以前は臨時交付金を活用して事業を実施。それに代わるものとして、平成21年度から地域活力基盤創造交付金事業としてスタートしていると回答し理解を得た。 目標の「緊急対策や災害に強いネットワーク」とは、どういうものかという意見があったが、新東名高速道路の藤枝岡部ICや現東名高速道路の焼津IC、県道焼津森線等の広域的な幹線道路にむかうアクセス道路等を整備することにより、災害時の一体的なネットワークとして緊急時の震災等を考慮した計画としていることを指し、物理的具體性のあるものとしては、天王町仮宿線など軟弱地盤である路線に対して深層混合等の特殊な工法により地盤改良等しながら整備を進めていると回答し理解を得た。 <p>【事業の進捗状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体事業費について、当初に比べ10億円程度減少している要因について質疑があり、申請金額に対して国の内示金の減額、また事業の見直しにより事業費の削減できたことによるものであると回答し理解を得た。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	特になし
その他	特になし	